



田島小だより

No. 16



「やる気」の土台は「好き」!

年末から報道されていた大谷翔平選手からのグローブのプレゼントが本校にも届き、全校生で開封しました。

数日前からグローブが届いた学校の記事が新聞等で流され、子供たちはウキウキワクワク、目はキラキラでした。

その際、本年度の重点であるキャリア教育について、「魔法のランプ」そして大谷選手をもとに子供たちに話をしました。

年度初めに「夢をもつことの大切さ」を「大谷選手」をもとに話し、学年のまとめの学期に大谷選手のグローブをもとに振り返ることができました。子供たちにとって再度「夢をもつことの大切さ」「夢実現に向け、今自分がやらなければ、ならないこと」を全校生で確認することができました。

会の中で子供たちにも紹介しましたが、グローブと一緒に入っていた大谷選手のメッセージの一部を紹介します。



「子供たちが野球に興味をもってもらうために立ち上げたプログラム…。**野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。・・・**」

このメッセージから、大谷選手の「野球への感謝の気持ち」、そして「本当に野球が好きなんだ。」ということが伝わってきます。

「やる気(モチベーション)」を高めるために大切なことは「好き」であること。

好きなことには「集中できる」

「時間を忘れて取り組める」

「もっと〇〇できるように創意工夫をする」

とつながっていくように感じます。

運動だけでなく、学習にあっても同じことが言えると思います。まずはその学習を好きになることが重要であり、そのためにちょっとしたことでも「おおげさに褒める」ことを学校では行っています。ノートやプリントへの「大きな〇(はなまる・くままる:私が子供の時もらった最高級の〇)」など、できたことを様々な方法で称賛しています。ぜひ、各家庭でもまずは「褒める」、そして「好き」と思わせ「やる気」につなぐこと取り組んでみてください。



「能登半島地震」をもとに

大谷選手のグローブ披露と合わせて子供たちに話したのが今回石川県を中心に大きな被害をもたらした大地震についてです。



会の中では以下のことについて話しました。

- 1 今報道されている状況を13年前ここ福島県でも経験(東日本大震災)し、同じような苦労をお家の人たち(福島県・東北)はしたこと。
- 2 東日本大震災の時、他の県や国、ボランティアの人などの支援があって、今の福島県(東北)があること。

そして、この2つのことを頭において、

- ① 能登半島で今起こっていることをみてほしい。
- ② 多くの支援が必要な人たちに、私たちは何ができるのか、考えてほしい。
- ③ もし将来同じような災害に遭った際、どのように行動するか考えてほしい。

今後は、特に②について、学校全体でできることを6年生が中心となって考えていきます。また、道徳科の授業を中心に「命の大切さ」「自然への畏敬」そして「協力・共助」について各学年の実態に応じて学習を進めていきます。

東日本大震災後、福島県では悲慘な中にも心温まるエピソード等があり、それを伝えていかなければならないと考え、まとめた資料があります。それが「ふくしま道徳教育資料集Ⅰ～Ⅲ」です。自由参観の際3年生が「がんばらやんばい」を活用したように、学年によってはその資料を活用し道徳の授業を行います。

給食においても「防災・災害食」を予定しています。今まで「塩むすび」「レトルトのカレー」「レトルトの根菜汁」「すいとん」など子供たちは経験しています。今年の3.11では「乾パン」を予定しています。防災・災害食として提供してきた献立は、こちらの意図に反して結構好評です。しかし、子供たちはこのような食事が毎日続くことは想定していません。今回被災された状況をもとに、自分事として捉え、考えることができればと思います。



スキー教室、お世話になります！

本年度は指導者が不足する際、インストラクターの活用を考えていましたが、保護者の皆様のご協力により特に必要な学年はないとのことでした。次年度以降も同じ対応をとりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「お知らせコーナー」 ※ご意見をお願いします。

保護者氏名() ()年児童氏名() ()